

Ⅱ. キャンパスの将来像

06 基本方針 **P13**

07 キャンパス整備の目標（五福・杉谷・高岡） **P13**

08 フレームワークプラン **P17**

09 キャンパスの長期展望 **P20**

2021年 (R3年)	2024年 (R6年)	2025年 (R7年)	2035年 (R17年)	2036年～ (R18年～)
Near-Term (短期計画)		Mid-Term (中期計画)		Long-Term (長期計画)

06

基本方針

point

アカデミックプランをはじめとする目標や計画の具現化をめざし、「V.キャンパスの現状と課題」を踏まえ、今後の国立大学としての役割を発揮するための「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」に向けた方向性を見据えながら、キャンパスの将来像の確立のため5つの基本方針を次のとおり掲げる。

- 基本方針1 知の拠点としてのキャンパスを提供する
- 基本方針2 地域と一体となったキャンパスを提供する
- 基本方針3 魅力的で居心地のよいキャンパスを提供する
- 基本方針4 安全・安心なキャンパスを提供する
- 基本方針5 サステナブルなキャンパスを提供する

07

キャンパス整備の目標（五福・杉谷・高岡）

point

5つの基本方針に基づき、将来にわたって志向するキャンパス整備の目標を次のように掲げる。

□ 基本方針1
知の拠点としてのキャンパスを提供する

- ・学修環境や研究環境が整っているキャンパス
世界水準の学修環境，研究環境を整え，国際化を推進する。
- ・イノベーション創出
産学官金の連携を進め，イノベーションを生み出す教育・研究環境の創出を目指す。
- ・グローバル人材の育成
地域のみならず，国境，世代，分野を超えた交流の輪を生み出すキャンパス環境を整える。

□ 基本方針2
地域と一体となったキャンパスを提供する

- ・地域に開かれたキャンパス
オープンスペース，パブリックスペースを整え，「開かれたキャンパス」づくりを進める。
- ・都市計画と一体となったキャンパス
自治体，周辺地域と連携し，都市計画の一端を担うキャンパスとする。

・地域の活性化を促すキャンパス

キャンパスとその周辺地域が一体化し，地域と連携した施設の誘致を目指す。

・公共性，公益性を重視したキャンパス

地域や都市の中核として基盤の維持向上を図り，人材育成・供給と地域医療サービスなどを展開して，都市の経済と社会生活を支える。

□ 基本方針3
魅力的で居心地のよいキャンパスを提供する

- ・学生生活が完結できるキャンパス
福利・厚生・アクティブラーニング環境等を充実し，学生生活の質の向上を図る。
- ・潤いのある環境が備わっているキャンパス
くつろげる，リフレッシュできる，潤いある豊かな空間を整える。
- ・質の高い空間と環境があるキャンパス
景観に配慮し，外壁のデザイン，色彩の統一を図る。
- ・思い出が語り継がれるキャンパス
象徴的な空間や建物を設え，魅力的で愛着が湧くキャンパスとする。

□ 基本方針4

安全・安心なキャンパスを提供する

- ・ **自然災害に強いキャンパス**
耐震性能を確保し、豪雨や河川の氾濫などの自然災害による被害を最小限に抑える「減災型のキャンパスづくり」を進める。
- ・ **ユニバーサルデザイン化されたキャンパス**
交流する全ての人にとってわかりやすく利用しやすいキャンパスとする。
- ・ **セキュリティが保たれるキャンパス**
適切なセキュリティレベルを確保する。

□ 基本方針5

サステイナブルなキャンパスを提供する

- ・ **エコ・キャンパス**
CO₂排出抑制を強化し、ZEB (Net Zero Energy Building) を目指す。

- ・ **長期にわたり良好な状態を維持・向上していくキャンパス**

適切な維持管理の下で、建物等の長寿命化を図り、費用対効果に配慮したサステイナブルなキャンパスを実現する。

- ・ **クリーンなキャンパス**

省エネルギー活動と廃棄物の発生抑制等を継続的に実施し、環境に配慮したキャンパスを実現する。

以上、5つの基本方針を実現していくために、総合的かつ長期的観点に立って、施設を確保し活用するために行う一連の取組である施設マネジメントをより一層推進する。

なお、個々の計画については、「IV.項目別計画」に記載する。

(五福キャンパス)

□ 基本方針1

知の拠点としてのキャンパスを提供する

- ・ 文理様々な専門分野の教育・研究活動を支えるキャンパス環境を安定的、継続的に提供する。また、全学的な教養教育の場として、学生の主体的な学修を促す質の高い教育を行うためのキャンパス環境を整備する。
- ・ 産学官金連携の地域拠点としての環境整備や、分野横断的な新たな学術体系に係る教育・研究活動を支えるキャンパス環境整備を推進し、イノベーションを創出するためのキャンパス環境を提供する。外国人研究員や留学生の滞在施設や、双方向通信施設を拡充し、グローバル化に適応したキャンパスを提供する。

□ 基本方針2

地域と一体となったキャンパスを提供する

- ・ 五福地区は、五福陸上競技場及び県営富山野球場に隣接し、また五艘地区人間発達科学部附属の各種学校を含め、地域の一大文教地区を形成している。こうしたことから、学内外施設の相互利用や、交通アクセス向上のための整備を行い、地域と一体となったキャンパス環境を整備する。

□ 基本方針3

魅力的で居心地の良いキャンパスを提供する

- ・ 学生のみならず広く市民が利用しやすい

キャンパス環境を提供する。富山地方鉄道へのアクセス、自家用車での来学経路や駐車スペースの見直しを通して利便性を向上させるとともに、メインストリートを中心に歩行者専用区域を設けるなど、魅力的で居心地の良いキャンパスを提供する。

□ 基本方針4

安全・安心なキャンパスを提供する

- ・ 大規模災害への対応や、防災・減災の地域拠点としてのキャンパス環境を安定的、継続的に提供する。また、障害者も健常者と等しく学べるキャンパス環境を安定的、継続的に提供する。

□ 基本方針5

サステイナブルなキャンパスを提供する

- ・ 合理的な施設の再配置や、施設の長寿命化を通して、低コストで長期にわたり良好な状態を維持・向上していくキャンパスを提供する。また、エネルギー効率の改善や、地中熱利用などの促進により、エコ・キャンパス環境を整備する。



五福キャンパス

(杉谷キャンパス)

□ 基本方針1

知の拠点としてのキャンパスを提供する

- ・ 医薬学の将来を担う人材を育成する教育活動や独創的・先端的な研究活動，ならびに東西医薬学の融合による新たな学術体系に係る研究活動を支えるキャンパス環境を安定的，継続的に提供する。
- ・ 医薬学その他の学問分野を超えたイノベーション活動を支える基盤として，また，グローバル化の進展に資するよう，学内外のみならず国外からも多様な人材が共創・学修する場を提供する。

□ 基本方針2

地域と一体となったキャンパスを提供する

- ・ 地域の中核となる医療機関を擁するキャンパスとして，地方公共団体や企業等と連携した研究活動，ならびに医療従事者等の生涯学習を支えるキャンパス環境を提供する。

□ 基本方針3

魅力的で居心地の良いキャンパスを提供する

- ・ キャンパス内の埋蔵文化財に配慮した緑豊かなキャンパスを形成するとともに，学生・教職員のコミュニケーションや教育・研究活動が活性化するよう魅力的で居心地のよいキャンパス環境を提供する。

□ 基本方針4

安全・安心なキャンパスを提供する

- ・ 学生・教職員のみならず，附属病院における多様多数の利用者を擁するキャンパスとして，大規模災害への対応やセキュリティ面等における安全・安心なキャンパス環境を確保するとともに，地域医療活動の拠点として活動するに相応しいキャンパス環境を提供する。
- ・ 留学生，外国人研究生等にとって安全で安心なキャンパス環境を提供する。

□ 基本方針5

サステナブルなキャンパスを提供する

- ・ 施設性能の向上，教育・研究スペースの再編成ならびにエネルギー使用の合理化を図り，教育研究活動と医療活動の活性化と環境負荷の低減を教職員一体となって取り組めるよう持続可能なキャンパス環境を提供する。
- ・ 冷熱源エネルギーの削減を主としたESCO事業の導入を図り，H30年度より運用を開始した。エネルギーの削減目標と比較して100%以上の削減を行うように熱源システムの安定運用の確立を目指す。



杉谷キャンパス

(高岡キャンパス)

□ 基本方針1

知の拠点としてのキャンパスを提供する

- ・芸術文化分野の将来を担う人材を育成する教育活動や、芸術文化資源、景観資源等の研究を支えるキャンパス環境を安定的、継続的に提供する。
- ・富山県工業センター、富山県総合デザインセンター、地域の企業等との連携を強化し、地域産業に革新をもたらす技術・技法・デザイン開発等の教育研究拠点となるようなキャンパス環境を提供する。
- ・伝統工芸や地域伝統文化等、地域の芸術文化資源を国内外に発信するとともに、留学生や外国人研究者が安心かつ安全に学修・共創できる場となるようキャンパス環境を整備する。

□ 基本方針2

地域と一体となったキャンパスを提供する

- ・地方自治体が掲げる、芸術文化を核とした地方創生に寄与する教育・研究の拠点としてのキャンパス環境を提供する。
- ・伝統工芸産業従事者をはじめとする地場産業等の専門的職業人の再教育の拠点となるようキャンパス環境を整備する。
- ・地方自治体や地域の企業等と連携し、地域経済の活性化推進に寄与するための交流拠点となるようキャンパス環境を整備する。

□ 基本方針3

魅力的で居心地の良いキャンパスを提供する

- ・地域住民が芸術文化に親しみをもち、豊かな生活を享受できるよう、収蔵品の展示、授業の公開、キャンパスの開放等を通じて、市民と芸術文化の交流の場となるようキャンパス環境を整備する。

□ 基本方針4

安全・安心なキャンパスを提供する

- ・学生や教職員が、安全かつ安心して教育・研究活動を行えるよう、スペースの確保を含めた教育・研究環境を整備するとともに、持続的に安全性が確保されるキャンパス環境を提供する。
- ・障害者も健常者と等しく学べるキャンパス環境を安定的、継続的に提供する。
- ・学生・教職員のみならず、地域住民に対する、大規模災害時への対応やセキュリティ面等における安全・安心なキャンパス環境を提供する。
- ・地域住民が安全かつ安心して開放施設（図書館、スポーツ施設等）を利用できるようなキャンパス環境を提供する。

□ 基本方針5

サステイナブルなキャンパスを提供する

- ・施設性能の向上、教育・研究スペースの再構成ならびにエネルギー使用の合理化を図り、教育研究活動の活性化と環境負荷の低減を教職員一体となって取り組めるよう持続可能なキャンパス環境を提供する。



高岡キャンパス

キャンパスの骨格を形成する要素を「軸線」、「広場」、「緑地」及び「キャンパス周縁部」とし、それぞれの要素の配慮事項を定め、キャンパス環境の調和と秩序を保たせるとともに、キャンパス全体を「イノベーション・commons (共創拠点)」として機能する空間を整備する。

1. 軸線

それぞれのキャンパスの骨格を形成する重要な軸線を「主軸」と位置付ける。

また、主軸に準じる軸線を「副主軸」として位置付ける。

□配慮すべき事項

- ・歩行動線を主体として位置付ける。
- ・軸線は景観軸としての機能を持たせ、眺望を重視して建物配置を行うとともに、意匠の一体性及び高さの統一性を図る。
- ・軸線に接する部分、または軸線側に建物の正面及びオープンスペースを設ける。
- ・副軸線は軸線を補うものとして位置付ける。

2. 広場

「広場」は、オープンスペースやパブリックスペースとしてアカデミックな雰囲気と居心地の良さを醸し、交流を活性化する空間として位置付ける。

□配慮すべき事項

- ・広場を構成する緑地、サイン、アート、地表面や広場と接する建物については、意匠の一体性、高さの統一性を図る。
- ・交流を促し、安らぎを誘う素材を選定して広場を構成する。
- ・空間プロポーションの審美性を高め魅力ある空間を構成する。

3. 緑地

「緑地」は、ヒートアイランドの抑制、雨水流出の抑制による洪水被害の緩和、オープンスペース等の空間の演出、環境教育への効果、CO₂の削減効果や精神の安定やストレス解消などの癒しの効果があげられ、都市やキャン

パスに必要不可欠な空間である。

「緑地」はキャンパスの骨格を形成するものであり、癒しの場として位置付ける。

□配慮すべき事項

- ・保存緑地は将来的な土地の有効活用に配慮して維持を行い、保存並木を今後も変えてはいけない部分として維持していく。キャンパスごとに緑地率（緑地面積／空地面積または敷地面積）を定めて緑地を確保・整備し、癒しの場の形成を推進する。
- ・特に、線的な緑地である保存並木については、時代を継承する特徴的な空間として保全し継承していく。

4. キャンパス周縁部

キャンパスの周縁部を、周辺地域との調和及び都市計画との連続性に配慮したキャンパスづくりを行う。

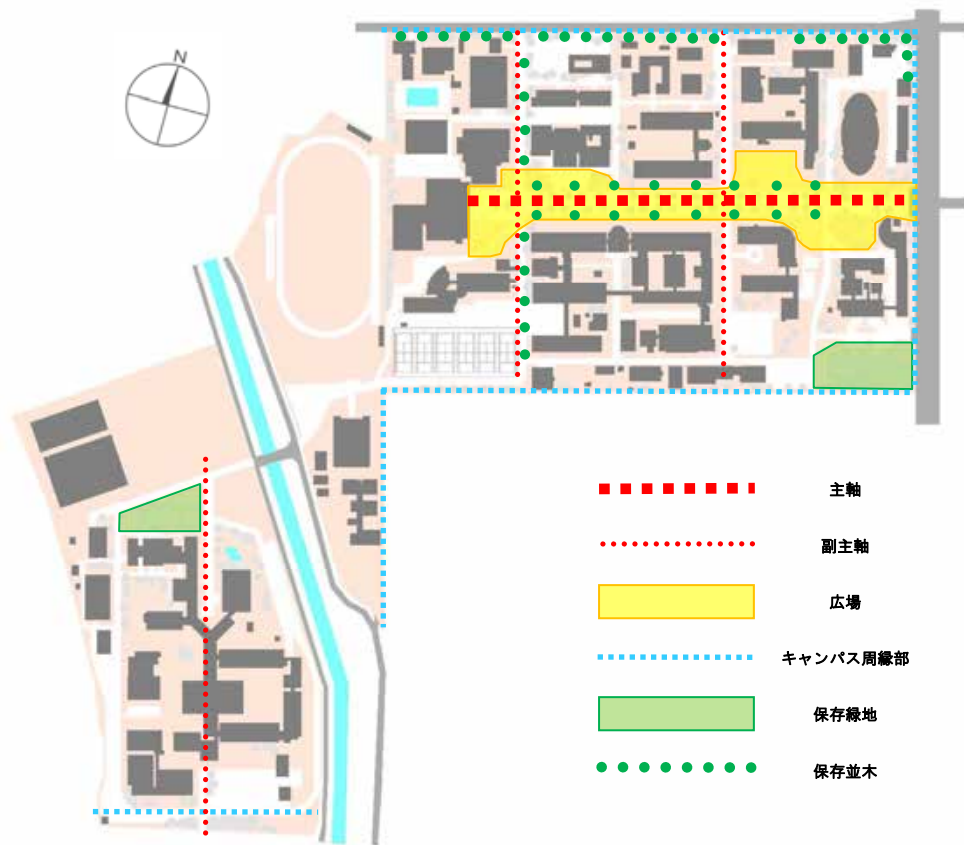
□配慮すべき事項

- ・緑地や植栽などを配して、圧迫感の抑制などについて配慮し、アカデミック環境を保全する緩衝帯とする。
- ・バイオハザード、ケミカルハザード等に配慮して高等教育機関のモラルを保つ。

5. その他キャンパス空間の確保

キャンパスの空間については、今後の学問の進展や社会・経済状況の変化に対応して本学における教育研究活動の質的向上に向けた取組が円滑にできるように、将来整備用地として良好な状態で確保するとともに、歓談、休憩、創造の場等に利用されるスペースとして空間を維持し、質の向上を図る。

図表-2.1 五福キャンパス フレームワークプラン



図表-2.2 杉谷キャンパス フレームワークプラン



09

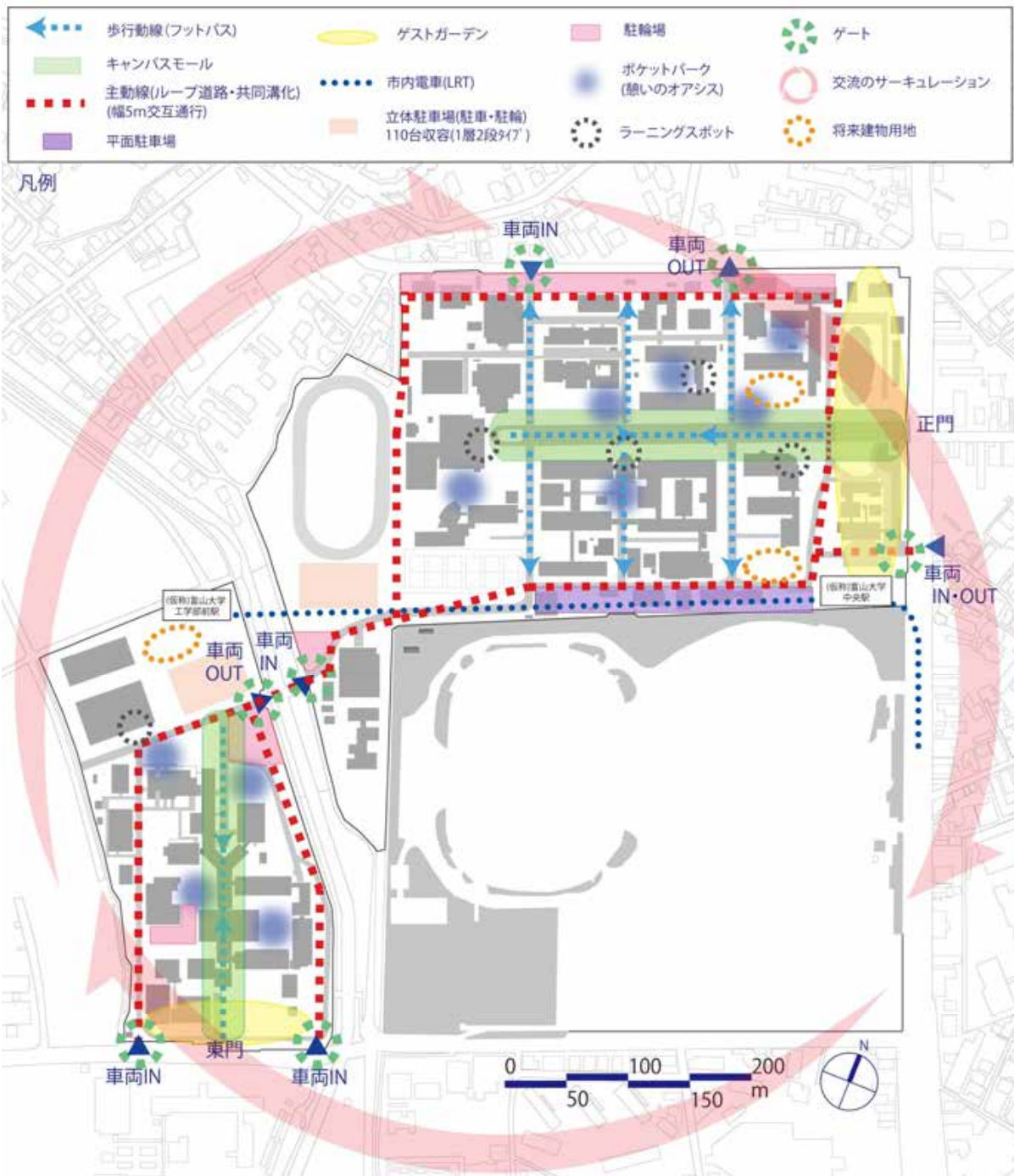
「夢があり個性きらめくキャンパスづくり」 に向けて

point

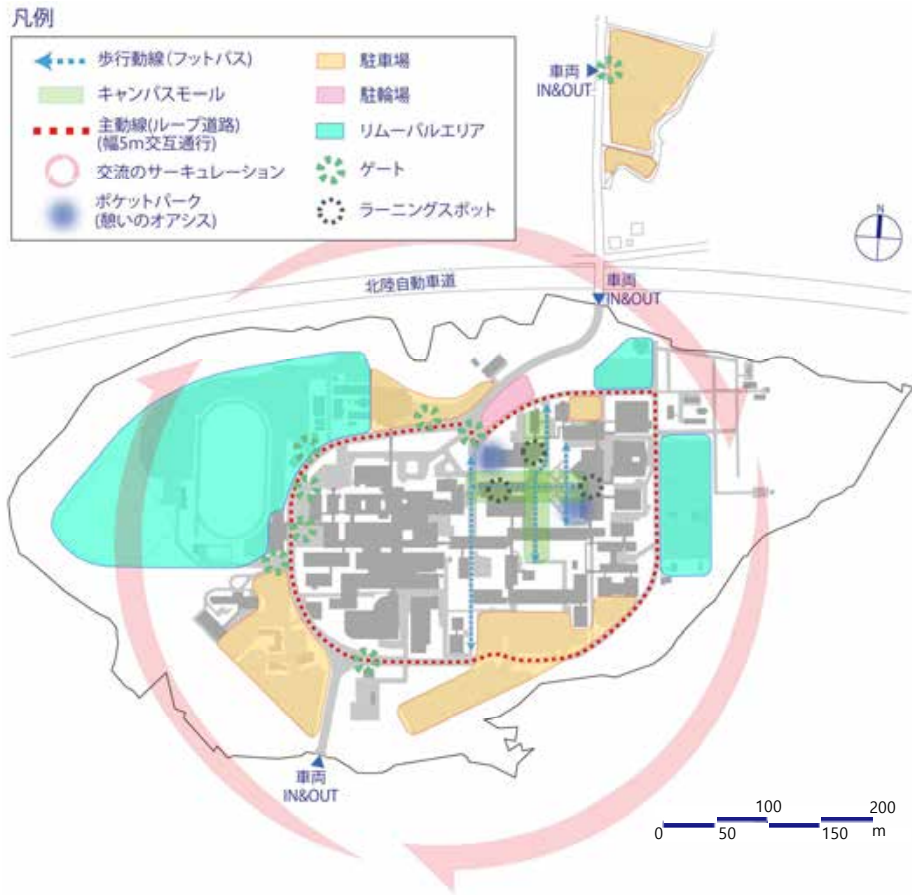
「夢があり個性きらめくキャンパスづくり」に向けて、主動線や屋外の交流空間を形成し、様々な人々との交流のサーキュレーションを生み出し、躍動的で魅力的なキャンパスづくりを行う。

富山大学キャンパス将来構想

図表-2.5 五福キャンパスの将来構想



図表-2.6 杉谷キャンパスの将来構想



図表-2.7 高岡キャンパスの将来構想





キャンパスモールイメージ



ポケットパークイメージ



フットパス ～歩くことを楽しむための道～



富山市内を走る市内電車（LRT）

■基本方針

方針1. 大学構内に市内電車（LRT）を導入

大学構内に富山地方鉄道の市内電車（LRT）を導入し、学内外の利用者に対して利便性を向上させ、様々な人呼び込み、交流のサーキュレーションを呼び起こす。

方針2. ゲストガーデン

交流ゾーンとして位置づけ、市民と社会との交流を図る。このため、四季折々の変化する景観を感じ、様々な交流を促す風格ある空間とする。

方針3. キャンパスモール

ゲストガーデンやポケットパークとともに、新たな賑わい・交流の場となり学生や市民に親しまれる外部交流空間として、キャンパスモールの形成を図る。

方針4. ループ道路の整備

外周道路や共同溝のループ化を図る。ライフライン（給水、消火、電力、通信）は共同溝内に敷設し、ライフライン更新時の供給確保、効率的なメンテナンスによる予防保全、大規模地震時のリス

ク分散を図り、キャンパスの強靱化を図る。

方針5. 歩車分離

車道を主動線の外周道路のみとし、外周道路に面した位置に立体駐車場を設け、駐車・駐輪機能の集約を図り、内側のアカデミックエリア内の駐車・駐輪場を廃止し、アカデミックエリア内の道路は全て歩行者専用とし、人々が安全に往き通う空間とする。

方針6. フットパスの形成

～歩くことを楽しむための道～

車止めによりフットパスを形成し、歩行動線として、隣接するポケットパークを介しディスカッションやコミュニケーションを促すことにより、交流が生まれ、楽しく歩行できる空間とする。

方針7. ラーニングスポットの整備

主な建物のエントランス周辺に内部・外部、双方向から連なる学修・交流一体空間としたラーニングスポットを整備する。

■将来展望

本学の強みや特色を生かした個性きらめく富山大学を創生するため、上記の基本方針等を推進することにより、「夢があり個性きらめくキャンパスづくり」を図るものとする。

また、将来、キャンパスの集約化構想が実現することで、様々な人との交流によるさらなる相乗効果を生み出し、大学と地域がより一体化した、本学の理念である「地域と世界に向かって開かれた大学」が創生されていくものとする。